

特別セミナー

日時： 2016年11月14日（月） 15：00～17：00

会場： 広島大学 生物生産学部 C201教室

海外経験が豊富な2名の若手研究者にご講演いただきます。海外での研究生活についてもお話しいただく予定ですので、学部生・大学院生のご参加もお待ちしています！

山城 秀昭 博士（新潟大学農学部・助教）

被災家畜における生殖器官・機能影響の評価

福島第一原発事故による放射性物質に被ばくした牛について、ただ安楽死処分するのではなく、その命を福島畜産の復興、食の安全性評価や人類の知見のために活用し、被災した牛の次世代にも渡りその影響を解析することは重要なひとつの課題です。本セミナーでは、平成23年8月から実施してきた、原発から半径20キロメートル圏内の旧警戒区域において被災した雄牛とそれら次世代の産子における生殖器官・機能影響の評価について報告します。



菅原 淳史 博士

（ハワイ大学医学部 遺伝子改変動物開発部門 研究員）

胚盤胞補完を用いた臓器作製法の確立への試み

臓器移植は何らかの原因により臓器が機能しなくなった患者（レシピエント）に、提供者（ドナー）の健康な臓器を移植して機能の改善を図る医療です。しかし、レシピエント数に対してドナー数が大幅に不足しているのが現状です。そのため臓器を提供するための代替法が強く求められています。これまで、胚盤胞補完を用いてヒトへ移植可能な臓器を異種体内にて作製することを目的とした研究に従事し、Crisper-Cas9を用いたノックアウトと異種間胚盤胞補完を組み合わせた効率的な実験系を確立し、マウス体内でラット膵臓を作製することに成功しました。本セミナーでは、これまでの研究成果についてお話しします。



◆◆ 本セミナーは、5研究科共同セミナー認定科目です ◆◆